

地域人材ネット

情報発信事業を核としたシビックプライド醸成と新たな担
い手育成

藤田 とし子 (ふじた としこ)

まちとひと 感動のデザイン研究所 代表



○ 登録者情報
所在地

千葉県柏市

略歴

- 地域活性化伝道師
- 全国商工会連合会専門家
- NPO法人柏市ソーシャルキャピタル協会理事長
- 防災士

◆大学時代…日本テレビ他情報番組レポーター、大手出版社の編集校正などの機会を得て、地域情報の取材、編集、発信、話題拡散の手法を学び、「情報発信」が地域活性化の起爆剤になることを身をもって知りました。大学卒業後、大手流通企業、クチコミ系マーケティング会社を経る中で、顧客の心をつかむマーケティング手法を体得し、これまでの経験を地域活性化事業に活かしたいと転職を決意しました。

◆かしわインフォメーションセンター事業（平成13年～22年）…平成13年10月に柏市が整備した官設民営の情報提供施設『かしわインフォメーションセンター（KIC）』の管理・運営団体・特定非営利活動法人柏市インフォメーション協会に所属。理事、事務局長としてKICの立ち上げにかかわり、事業構想や組織体制構築に尽力しました。在職中は、単なる情報提供事業にとどまることなく柏市の魅力発信とまちなかのぎわい創出、回遊性の演出を実現する様々な事業を企画・推進し、中心市街地商店街や大型商業施設、市、商工会議所、大学との協働により様々なにぎわい事業を展開しました。さらに、館内の案内係やイベント企画の担い手として広く有志（ボランティア）を募り、年齢、国籍、障害の有無を問わないチーム作りを実現。『ウラカシMAP』をはじめとした「市民参加で創る手づくりマップ」が大きな話題を呼び、柏市のイメージ向上につながる情報発信を仕掛け続けました。また、市民参加のしくみづくりと市民が活躍できる舞台づくりを通じ、「自分ゴトとしてのまちづくり」を提案するなど、市民のまちに対する誇りと愛着を醸成する『シビックプライドセンター』の実現に力を注ぎました。一方で、地域活性化のためには沿線のイメージアップが重要であるとの認識から、JR常磐線沿線のエリア価値向上につなげるべく、『JOBANアートラインプロジェクト』を企画、構想。地元柏市での『アートライン柏プロジェクト』を仲間とともに立ち上げ、多様な主体の参加と連携による、新たなまちの魅力創出に力を注ぎ、その事業は15年以上たった今も市民有志の活動して続いています。なお、平成19年には、地方自治法制定60周年記念総務大臣表彰を受賞いたしました。

◆株式会社全国商店街支援センター事業（平成22年～23年）…平成21年、国が制定した『地域商店街活性化法』と歩調を合わせ、新たな商店街支援を具体的に実践する組織として商業4団体が出資し設立した（株）全国商店街支援センターの初代事業統括役として、事業構築、組織体制づくりに尽力しました。在任中、全国各地を津々浦々訪ね、少子高齢化、人口減少、中心市街地や産業の空洞化、コミュニティの崩壊等々、地方が抱える課題を目の当たりにし、単なるにぎわいイベントの資金補助や活性化計画策定のアドバイスにとどまらず、持続可能な地域経営と商店街の新たな担い手と地域リーダーの養成が求められていることを痛感したことから『新たな商店街育成プログラム事業』『現地マネージャー育成事業』を構築、展開。同事業を通じ、意欲と行動力のある若手人材を育成し、現在も多くの卒業生（担い手）たちがまちづくりの現場で活躍しています。また、同時期に経済産業省新成長産業創出促進事業（社会課題型ビジネス活性化事業）委員を拝命しました。

◆まちとひと 感動のデザイン研究所（平成23年～現在）…同研究所代表として、これまで培った持続可能な地域活性化のための組織づくり、事業の企画運営、担い手育成のノウハウを広く各地に伝えるため講演活動の傍ら、全国各地で有志を募り新たな地域の魅力創出に向けた『まち歩きMAPプロジェクト』を展開し、これまでに全国で延べ120を超える「まち歩きMAP」を世に送り出しました。当プロジェクトは当該地域の魅力発信はもとより、持続可能な地域経営の担い手育成にも力を入れており、プロジェクトを通じ埋もれていた人材を発掘・育成し、息の長い地域活動の担い手を数多く輩出しています。また、被災地支援では、宮城県の復興支援員及び地域おこし協力隊を対象とした研修講師、アドバイザーとして、地域コミュニティの再生や新たな地域づくりについて指導、助言を行う（平成27年度）他、近年は人口数千人の町村や過疎地指定町村の地域再生アドバイザーとしても活動しています。

著書・論文等

○ 情報発信事業を核としたシビックプライド醸成と新たな担い手育成

取組の内容

私の主宰する「まち歩きMAPプロジェクト」は企画から編集校正、DETA作成まで、住民、学生、店主など地域人材を募り、極力プロの手を借りずメンバーだけでやり遂げる「地域の宝・発見プロジェクト」です。他に、地域の魅力発信のためのかかわり版や情報誌の企画、制作も行っていますが目的、手法はすべて同じです。

目的は大きく三つ。

1) 素人ながらMAP制作に取り組むことで1人1人が「メディア」でありうることを自覚し、「自分ゴト」としてまちの魅力を語れる「新たな担い手」を発掘・育成すること。

2) 埋もれていた地域の魅力を『見える化』することで、地域の人たちがまちに対する誇りと愛着を感じ、感動と共感のスパイラルにより「シビックプライド」が醸成されていくこと。3) 新たな担い手たちが自ら地域課題を発見・解決していこうとする「持続可能なまちづくりへの取り組み」について、地域が丸ごと応援する気運を醸成すること。

一見地味で目立たない取り組みに見えますが、地域人材がいきいきと活躍するまちはそれ自体が魅力的なコンテンツとなり、多くの人の心を引き寄せます。

自分たちのまちの未来は、自分たちで創る！という心意気あふれる人材を育ててこそ「持続可能な地域活性化」事業。私はそのゴールと道すじを見出すための伴走者として地域とともにありたいと思っています。



「会津若松市」小学生による商店街活性化
のためのまち歩きMAPプロジェクト



「寄居町」次世代の担い手育成
プログラム『寄居若者会議』

実績

千葉県柏市で展開したまち歩きMAPプロジェクトでは、大学生有志によるお客様目線のコメント満載の『イチオシらーめんMAP』『ウラカシMAP』が大きな話題となりクチコミ当情報が拡散した結果、柏駅周辺空き店舗には県外から有名ラーメン店が進出、人気のない裏通りには古着屋やカフェが続々と出店。空き店舗問題の解消だけでなく、「ラーメン店激戦区のまち」、「オシャレな若者が集うまち」のイメージを醸成し、「東の渋谷」とも評され、にぎわいと回遊性の創出に寄与しました。その後15年以上にわたり全国で延べ120以上の同プロジェクト及び次世代人材の発掘・育成を目的とした「若者会議」を展開。事業終了後もメンバーたちが主体的にイベントやプロジェクト活動に取り組み、地域活性化の新たな担い手として活躍しています。

工夫した点や苦労した点

近年、10年後のまちづくりの担い手育成を念頭に、35歳以下の若者層をターゲットにメンバーを募集し、事業を展開しています。そのため心証を悪くする方々も時折見受けられますが、現役の担い手が気持ちよく席を譲り新たな担い手の応援団となり、最後は地域一体となって活性化に向け取り組んでいくことを目標に、その体制づくりについてもアドバイスやサポートを行っています。

ひとことPR

地域活性化・持続可能なまちづくりの肝は〈シビックプライドの醸成〉と〈次の時代の担い手育成〉。「一過性のにぎわい創出」に酔うことなく、地道に地域の宝を掘りおこし磨き上げていく事業に、一緒に取り組んでいきましょう！

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
地場産品発掘・販路開拓	○ 中心市街地活性化
6次産業化	○ 空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	○ 商店街活性化
地域中核企業等の支援	○ その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	○ DMOとの連携
地区防災計画	インバウンド対応
BCP	民泊・農泊
避難所運営	○ 地域おこし協力隊の推進
感染症対策	○ その他 マイクロツーリズムの推進
その他	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
○ 滞在・活動の場づくり	○ 起業・事業承継等支援
○ 地域おこし協力隊の推進	○ 空地・空家対策
○ 地域と関係人口の協働	○ 地域おこし協力隊の推進
その他	○ その他 若手人材・担い手育成
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
○ 結婚・出産・子育て支援	○ 人材研修
働き方改革	○ ふるさと教育
子どもの貧困対策	地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	○ 地域プランディング
官民連携(PPP・PFI)	○ メディア活用策
自治体間連携	効果の把握・評価
○ 住民参加	その他
その他	

関連ホームページ

連絡先

メールアドレス	info〔アットマーク〕kando-design.com	その他	
---------	------------------------------	-----	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。